

選択 A：歴史

【時間・コマ数】

週 2 日 全 32 コマ (1 コマ 50 分)

【クラス人数・クラス数】

6 人～10 人×1～2 クラス

【到達目標】

・歴史学およびその隣接分野を専門とする大学院生が、今後、研究者として、日本語を使って研究活動ができるような日本語能力を身につけること。

・すなわち、以下のような能力を身につけること。

必要な史料・論文を探して入手でき、それらを読みこなせる。

各種の学会・研究会・シンポジウム・大学のゼミ等に参加して、日本語の講演・発表を聞いて理解できる、あるいは自ら発表できる、質疑応答や討論に参加できる、日本人研究者と交流がはかれる、等。

【授業概要】

学生の専門、研究テーマに合わせて選んだ、歴史史料、および専門書・学術雑誌・論文の読解を中心に、発表、ディスカッションなども行う。

また、図書館、資料館を訪問し、資料の探し方なども経験する。

【授業テーマ・内容】

第 1 週：各学生の研究テーマ発表

第 2 週：「教育勅語」原文、田中彰「教育勅語とはなにか」

第 3 週：久米邦武『米欧回覧実記』原文、小野博正「知られざる岩倉使節団の群像」

第 4 週以降：各学生の研究テーマに合わせた歴史史料及び学術書・論文の読解、ディスカッション等を行う。

4 学期後半には各学生が自分のテーマで授業（1 回・100 分）を企画する。

教材例（昨年度実績）

歴史史料：

- ・松尾尊允編『石橋湛山評論集』（岩波書店、1991 年）
- ・徳富猪一郎『第二蘇峰随筆』（民友社、大正 14 年）
- ・近代の新聞・雑誌記事
- ・『大日本古記録 言経卿記』（岩波書店、昭和 46 年）
- ・『国史大系 日本書紀 前篇』（吉川弘文館、昭和 57 年） ほか

専門書・論文：

- ・古川博巳・古川哲史『日本人とアフリカ系アメリカ人』（明石書店、2004年）
 - ・三宅健一『秋葉原は今』（芸術新聞社、2010年）
 - ・梶谷懐『日本と中国経済—相互交流と衝突の100年』（ちくま新書、2016年）
 - ・榎村寛之『斎宮—伊勢斎王たちの生きた古代史』（中公新書、2017）
 - ・杉森哲也『近世京都の都市と社会』（東京大学出版会、2008年）
 - ・佐藤道信『〈日本美術〉誕生』（講談社、1996年）
 - ・東京国立文化財研究所『語る現在、語られる過去—日本の美術史学100年』（平凡社、1999年）
 - ・平山昇「『体験』と『気分』の共同体—二〇世紀前半の伊勢神宮・明治神宮参拝ツーリズム—」『思想』no.1132、2018年8月
 - ・佐藤亜美「仏像胎内に納められたタカラガイの意味」『東北宗教学』第16巻、2020年
- ほか